

## 1 日目

私たちの旅は五井駅から始まり、絵のように美しい赤い電車と活気ある地元の人々に迎えられました。最初の目的地に向かう途中、田んぼが視界に入り始め、高滝に近づくにつれて、田んぼはますます広く、美しくなっていました。



途中、牛久駅などで停車し、鉄道愛好家たちが他の電車や私たちの電車を撮影するために降りていきました。彼らの電車に対する熱意に驚かされ、私たちもますます興味を持つようになりました。



高滝駅に到着すると、予定していた博物館の展示会のチラシを見つけ、素晴らしい展示会があることを知って嬉しくなりました。高滝での最初の訪問先は高滝神社で、静かで平和な神社であり、高滝湖の素晴らしい景色を楽しむことができました。いとは熱心な収集家で、ここでスタンプを集めました。その後、湖の橋を渡り、美しい鳥居のそばで親切な日本人のグループと会話を楽しみ、湖畔の博物館に到着しました。驚いたことに、地元の品物を販売する市場が開かれており、短時間で見物し、展示会に向かいました。



博物館は旅行のハイライトであり、メキシコをテーマにしたキャンバスや部屋全体を使った複雑なインスタレーションなど、さまざまな展示がありました。個人的なハイライトは、桑久保亮太の「失われた窓」で、ライトが木々や窓のようなものを壁に投影するインスタレーションでした。この時点で私たちはかなりお腹が空いていましたが、幸いにも博物館のすぐ外にレストランがありました。



そのレストランは湖の美しい景色を望むイタリアンレストランで、プロシュート、チーズ、マッシュルームのオープンピザを注文しました。間違いなく日本で食べた中で最高のピザの一つでした。その後、探索を続け、コーヒーを提供し、日本のジャズを流す美しいコテージを見つけ、そこで一杯楽しんでから駅に戻ることにしました。



しばらく線路沿いを歩き、自然に覆われているがよく整備されている線路を歩きました。その後、大原に向かいましたが、すでに遅かったため、長くは滞在せず、勝浦で一日を終えました。海辺の美しいホテルに泊まり、地元の料理を楽しみました。翌日が楽しみで、ぐっすり眠りました。



## 2 日目

朝は早く始まり、7:30には地元の人々に教えてもらった朝市を探しに出かけました。色とりどりの屋台には見慣れない魚や野菜が並び、ユニークなキャラクターが飾られた地元の衣料品ブランドにも出会いました。しかし、まだ訪れたい場所がたくさんあったため、探索を中断しました。

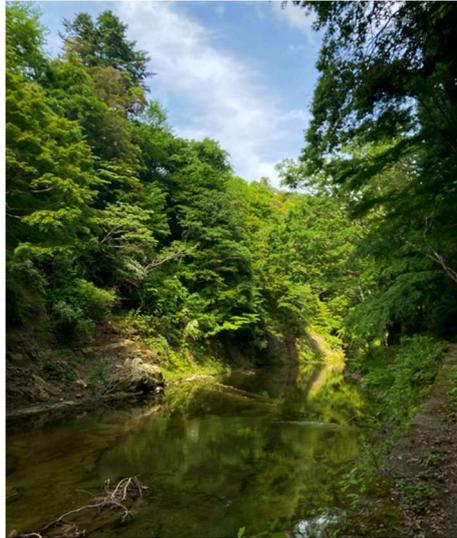


次の目的地は大多喜で、前日に通過した際に見かけた高い城に興味を持ちました。到着すると、地元の人々から大多喜市がメキシコと古くからのつながりがあることを教えてもらいました。正直なところ、大多喜で故郷を思い出させるものに出会うとは思いませんでしたが、何年も前にフィリピンの総督であるロドリゴ・デ・ビベロを乗せたスペインのガレオン船が大多喜近くで座礁し、地元の漁師が救助し、大多喜城に連れて行ったとのこと。感謝の印として、ビベロを助けたことに対し、マドリッドで作られた日本で最初の時計が大多喜に送られたのです。この話は、大多喜市の親切な地元の人々との会話で知りました。



大多喜市の後、次の目的地は養老溪谷でした。秋の絶景で有名な場所で、上総中野からバスで谷へ向かいました。近づくにつれて緑が増し、秋でなくても溪谷の緑は見事でした。リラ

ックスしたハイキングを楽しみ、途中で行われていたお祓いを見学し、僧侶が伝統について親切に説明してくれました。その後、幻想的な映画の一場面のような光景を作り出す光のビームで照らされた神秘的なトンネルを通り、川に出ました。ここで1時間ほど歩き、冷たい川の水に足を浸してリラックスしました。旅を締めくくるために、駅に戻り、木製のラーメン屋で地元の山菜を使った美味しいラーメンをいただきました。



ここで旅は終わりかと思いましたが、五井駅に戻る最後の電車が旅のハイライトとなりました。夕日が田んぼに反射し、電車が揺れる草を通り抜ける中で夜の冷え込みが感じられるこの瞬間、まるで宮崎駿のアニメ映画の一場面のように、この旅がこんな風になるとは思ってもみなかったことに感謝しながら、その瞬間を楽しみました。

